

新 生

平成三十年九月十日印刷
平成三十年九月二十日発行

新生第七十巻 第三号



東北新生園入所者自治会

新 生

平成三十年九月十日印刷
平成三十年九月二十日発行

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男26名 女38名 計64名
職員定員数	150名（平成30年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



第七十巻 第三号

第四回 三遊亭遊馬 独演会

— 平成30年7月3日 —



園内日誌

平成三十年 四月～六月

《四月》

二十日 観桜会行事（抽選会）

《五月》

三十一日 春季バス旅行（塩釜方面）

《六月》

二十八日 第三十五回高松宮記念杯近隣親善GB大会

【謝寄贈図書欄】

平成三十年四月～六月（敬称略）

多磨	東京都多磨全生園
菊池	熊本県菊池恵楓園
高楓	岡山県邑久光明園
愛生	群馬県栗生楽泉園
青松	岡山県長島愛生園
始良	鹿児島県大島青松園
甲田	青森県星塚敬愛園
ふれあい文芸	平成三十年度版
東京都	公益財団法人日本財団

平成30年9月10日 印刷
平成30年9月20日 発行

発 行 東北新生園楓会(自治会)
編 集 楓 会 文 化 部
印 刷 川 内 印 刷 株 式 会 社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十卷第三号……………目次

表紙…「夏の風景」

ハンセン病学会顛末記……………	園長……………	横田……………
よろしくお願いいたします……………	事務長補佐……………	佐々木……………
私の故郷……………	一般作業療法主任……………	本間……………
ごあいさつ……………	栄養係長……………	柴田……………
随筆「一人息子の辺見さん」……………	今野……………	きよし……………
		(22)
		(19)
		(17)
		(14)
		(3)

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者……………	佐々木……………	洋……………	一……………	(25)
短歌……………	選者……………	皆川……………	二……………	郎……………	(28)
俳句……………	選者……………	山田……………	桃……………	晃……………	(30)
川柳……………	選者……………	栗石……………	隆……………	子……………	(32)
転勤のごあいさつ……………	看護師長……………	小田桐……………	恵……………		(34)
看護功労表彰を受けて……………	准看護師……………	窪田……………	澄……………	子……………	(36)
四コマ漫画「たすけあい」……………	原稿……………	北村……………	小富……………	蝶……………	(38)
園内日誌・謝寄贈図書……………	まんが……………	北村……………	小富……………	蝶……………	(38)

第九一回 日本ハンセン病学会総会・学術大会



日 時 平成30年6月14日(木)～15日(金)
会 場 国立療養所東北新生園 さくらホール
宮城県登米市迫町新田字上葉の木沢1番地
主 催 国立療養所東北新生園

お問い合わせ先
第91回日本ハンセン病学会総会・学術大会事務局
(国立療養所東北新生園内)
〒989-4692 宮城県登米市迫町新田字上葉の木沢1番地
TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765
メールアドレス jilac91@mhlw.go.jp
ホームページ <http://www.nhds.go.jp/sinseien/>

ハンセン病学会顛末記

園 長 横 田 隆

長島愛生園の元皮膚科医長の尾崎元昭先生より、「ハンセン病学会を是非、東北新生園で主催して下さい」とのお話があったのが一昨年の夏のことでした。尾崎先生は二十年以上にわたり、当園へ四ヶ月に一度来園して入所者の診察をして下さっておられます。尾崎先生の診察には私も立ち会わせていただき、ノート持参で診察内容・治療内容などをメモし、その後の治療を受け継ぐ・というスタイルでやっています。時にはデジカメでその後の病変部を撮影し、メールに添付して尾崎先生に送り、治療指示を仰ぐ、ということも多々ありました。

尾崎先生の診察は非常に丁寧で、入所者一人ひとりに優しく声をかけて下さり、視診・触診などゆっくり時間をかけて行われています。この診察の様子は医師にとって忘れかけていた初心を思い出させてくれるものであり、その点でも非常に勉強になりました。研修医に戻った気持ちになったものです。また、本病の再発のチェックも、「赤くて痛みのない皮疹が出たら、まず疑いましょう」と確定診断の診察方法も伝授していただきました。

当園にとっては恩人とも言うべき尾崎先生からのお話ですから、何とか当施設をあげて総力で取り組まねば・・と思ったものでした。とは言え、二ヶ月後に迫るコ・メディカル学術集会

にとりあえずは集中して・・・と、その当時は一年前くらいから準備するか・・・くらいに思っておりました。

昨年の六月より学会のことを考えるようになりました。師匠として色々と教えを請うたのは、星塚敬愛園の後藤正道園長で、学会のテーマのこと、シンポジウムのこと、特別講演や教育講演の内容など、様々なことについて相談に乗っていただきました。後藤先生はハンセン病療養所所長会の会長をされており、本省での会議の運営や交渉などに尽力されて来た先生で、私から頼りにする「兄貴分」のようなお方で、今回も多くの教えを受けて、学会の当初の計画の道しるべを提示して下さいました。

特別講演

高齢者の感染症の診かた、考え方

具 芳明（国立国際医療研究センター病院 AMR 臨床リファレンスセンター）

教育講演 1

幸せと元気を呼ぶ『らくらく運動療法』：その実際と効果

上月正博（東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野）

教育講演 2

転倒でよく見られる骨折 ― 診断・治療の要点と盲点 ―

羽鳥正仁（国家公務員共済組合連合会東北公済病院 整形外科）

特別講演、教育講演については以前から、もしも学会を主催することがあればこの先生方のように・・・という思いがあったので、連絡したところ、三人の先生から講演の快諾を得られました。これで一安心。

特別講演は感染症の専門家に依頼しました。国立国際医療研究センター病院の具 芳明先生で、具先生は以前、東北大学に所属されていたときに学生を連れて視察に来られました。その後、具先生のお話や結核の論文などを読み、是非、先生の講演をお願いしたいとその時から思っていました。結核も療養所ではたまに体験することがあり、医師を含めて職員が病気に慣れていないこともあり、対応が遅れるケースがあったのです。具先生の講演は私がお願いした通り、いくつかのテーマをお願いしていましたがすべてを網羅したお話をいただき、本当によかったですと思っています。

教育講演 1 は東北大学内部障害学の上月正博先生にお願いしました。心臓、肺、腎臓のリハビリをどのように高齢者に行い、入所者に元氣になってもらうか・・・と言うテーマでお願いしました。上月先生の講演は数年前に仙台市内で聞いたことがあり、是非、このお話は当園の職員に聞いてもらいたいと思っていたところでした。上月先生はユーモアたっぷりの落ち着いたしゃべり口で、会員の先生方にもとても勉強になったと思っています。

教育講演 2 は療養所内で非常に問題になっている転倒・骨折について東北公済病院副院長の整形外科医、羽鳥正仁先生のお話です。スライドではいろいろな実例を挙げて転倒の危険についてレクチャーしてくれて、写真に造詣が深い先生は松島や雀踊りの観光写真も入れてくれて、宮城県の宣伝までして下さいました。松島海岸の良さはその風光明媚な所もちろんですが、

安全であることも高く評価出来ます。東日本大震災の時に、隣の東松島市は津波の甚大な被害を受けましたが、松島はほとんど被害はありませんでした。なぜか・。松島を取り巻く島々が津波を跳ね返し松島の町を守ってくれたとのこと、自治会主催の旅行でも松島は安全だから安心して見送ることが出来ます。羽鳥先生はその後の懇親会にも出席され、整形外科医の会員から質問を受けてよい意見交換が出来たとのことでした。

シンポジウムについては、当園からもハンセン病の患者の診察などの研修に海外に行かせていただいておりますが、それをどのように日本のハンセン病診療に生かせるだろうか・・というテーマを計画しました。尾崎先生とハンセン病研究センターの森 修一先生にご相談申し上げ、お二人の先生に座長となっていたいただき、シンポジストの選定もお願いしました。森先生はその後、何度も当園や仙台の打ち合わせにお出で下さり、大変お世話になりました。閉会式でも森先生への感謝の言葉を述べたところです。

もう一つ、石田 裕理事長より新理事会からの提案についてのシンポジウムの開催の要請があり、諸問題について会場の会員も含めた意見を聞き、一定のコンセンサスを得たいとのことでした。どちらのシンポジウムも事前に座長とシンポジストの間では熱い議論がメールで飛び交い、これは熱のこもった議論が期待出来るだろうと思われるものでした。その期待は裏切られることなく、理事会でも学会会場でも「炎上」しました。これに関しては後述します。

学会会場は当園のホールを使うことにしましたが、学会などは行ったこともなく、スクリーンもない状態でしたので、一から準備が必要でした。もう少し大きめの会館も当園内にはありませんでしたが、休憩してお茶を飲むスペースや、接待準備の台所、講師の控え室などを考えると、その会館では不向きと思われました。結果を見ると、実際の会場の大きさはちょうどよかった

と考えております。

最も気になったのが、当園へのアクセスでした。当園は高速道路のインターや新幹線の駅から車で十三、四分と近いのですが、バス、電車など一切ないところで、実に辺鄙なところなんです。十年以上になりますが、厚労省の研究課題として、大島の療養所がまとめられた、「療養所の将来構想」をテーマにしたものがありました。その中で各園の特徴が列挙されており、「新生園Ⅱ僻地」と書かれていました。「僻地」という言葉を当園の久保自治会長は大変に気にし、と言うか気に病んでいたもので、私は会長に「高松市内の繁華街にはコウモリが多く飛んでいますよ、新生園にはコウモリなんていないですよ、いいじゃないですか、気にしなくても」と言ったものでした。家内の実家は高松市内で、よく里帰りをして家族で食事に行くのですが、街中で黒い物体が飛んでいる・・鳥ではなく・・コウモリだったとわかったときの私の驚き、今でも鮮明に覚えています。それ以上に衝撃だったのは、私一人が「コウモリだっ！大変だっ！」と逃げ回っており、家内の両親を含めて街行く人々が一人として驚いておらず平然と歩行していたことでした。そんな慰めを会長にしたのですが、当園が「僻地」かどうかはともかく、交通の便が非常に悪いのは確かです。どうにかして来て下さった会員の先生方にご迷惑にならないように・・とホテルの送迎バス、当園のマイクロバスなどの時刻設定を事務を中心に検討してもらい、計画を練りました。おおむねよかったようですが、数名の先生方には当方の手違いでご迷惑をおかけしてしまったことは申し訳なく思っています。

学会の前日には会場の準備もほとんど完成し、会場らしくなって来ていました。これで当日を迎えるばかりか・・と武者震いが出たものです。出来るだけ学会の進行はタイトにならないように・・と思っており、会員の先生方には休憩室でお茶など飲みながらお話ししていただ

きたかったのですが、結果的には非常にタイトなものになってしまいました。

シンポジウム1

座長：尾崎元昭（国立療養所長島愛生園）

森 修一（国立感染症研究所ハンセン病研究センター）

諸外国のハンセン病対策と医療から学ぶべき事―国際医療協力と国内医療に求められる知見とは―

シンポジスト：尾崎元昭（国立療養所長島愛生園）

森 修一（国立感染症研究所ハンセン病研究センター）

畑野研太郎（JOC S）

石田 裕（天草市立牛深市民病院）

松岡正典（重監房資料館）

シンポジウム2

座長：圓 純一郎（理事・事務局長、国際医療福祉大学）

日本ハンセン病学会の現状と課題―新理事会からの提案―

趣旨説明：石田 裕（理事長、天草市立牛深市民病院）

1. 新患調査ワーキンググループ

青木美憲（理事、国立療養所邑久光明園）

2. ハンセン病診療ネットワーク改定ワーキンググループ
並里まさ子（理事、おうえんポリクリニック）

3. 啓発活動における専門医の役割（過去および現在）
和泉眞蔵（理事、アイルランガ大学）

シンポジウム1に関しては、それまでの演題発表で時間が押していて、十分な討論の機会が出来ませんでした。その中でも専門家の討論は非常に得るところが多かったと考えています。私の希望でシンポジウム1はしていたので、尾崎先生、森先生には心から感謝しています。

シンポジウム2の演題は前日の理事会でかなり討議が紛糾しました。当初の二時間の予定が四時間になり、私は終わったときに一言意見を求められたので、「フルマラソンの前日にハーフラソンを二本走らされた」ような思い・と答えたものでした。翌日の本番が極めて心配になりました。シンポジストの一人である先生からは、「明日は怖いですね」と言われましたが、「怖いのはこちらだよっ!」との思いでした。

本番の学会では理事会でかなりのガス抜きが行われたためか、ワーキンググループ1、2はさしてもめず、3の「啓蒙活動における専門医の役割」ではかなりの議論が行われ、「炎上」と言ってもよいかもしれない状況でした。私が気になったのは隔離政策の中心人物となった者に敬称が付けられず、一貫して呼び捨てでされたことでした。これは「極悪非道」という認定でそうされているだろうか・などと発表を聞きながら考えていました。かなり昔は、逮捕された容疑者はテレビ等の報道では呼び捨てにされていました。自衛隊乱入の三島事件では、直

後にテレビで“三島由紀夫”と呼び捨てにされ、ハッと思ったことを記憶しています。最近はそのようなことはなく、どのような者に対しても“容疑者”、“被告”などの呼称を付けています。少し前には訳のわからない“メンバー”などの呼称もあり、世間は当惑したものでした。

その敬称を付けない呼び方に違和感を感じたのは、既に故人になった人・・・ということも関係していると思います。日本人は亡くなった方を決して悪く言わない・・・そのような教育がありました。私が小学校四年生の時に私をターゲットにして虐める教師がおりました。その先生は交通事故で亡くなってしまったのです。その知らせを聞いて、「ああ・・・明日からもう虐められないですむ・・・」と思い、家ですさきに「よかった」と言ってしまったのです。それを聞きとがめた親からこっぴどく叱られ、「亡くなった人にそのようなことを言うてはならない」と何度とも言われたものでした。親からすれば自分の子供を虐める教師ということを知っていないが、被害を受けている子供を叱るわけですから複雑な心境だったと思います。それでも死に対する恐れ、仏になった人への思いなど、日本人が受け継いできたものを子供に伝える必要があると考えたのだらうと思います。もう五十年前も前の事をシンポジウム2の話聞いていて思い出していました。さらに日本人の国民性も考えた方がよいような気がしています。日露戦争後に日本主催の慰霊祭がロシアの戦場で行われましたが、慰霊は戦った相手のロシアの兵士たちにも向けられたとのこと、このことを聞き、当時のロシア皇帝は感激し、慰霊祭に是非参加したいとの希望を述べたと言います。実際にはロシアで革命が起こり、参加は出来ませんでした。亡くなった敵兵士のためにも慰霊する日本人の国民性は、大昔からあったもので、他の民族によってはそのようなことは考えられない・・・ということもありましょう。この寛容さを私は日本人として誇りに思っています。

このワーキンググループでの結論を学会として全国民に向かって提案するのであれば、どうか慎重な記載をお願いしたいと思ひ、老婆心ではありますが、私の正直な気持ちをこの場をお借りして述べたところです。学会は適切に対応するだろう事を私は確信しております。

意見交換会は料理もまあまあで、会員の方も満足されたのでは・・・と思ひます。一昨年の当園主催のコ・メディカル学術集会では、その前の年に「日本酒と牛タン、ホヤをご用意してお待ちしています・・・」と、落語家のように日本酒を飲む真似をして宣伝したものでしたが、実際は日本酒だけがなかった・・・そのようなことのないように、念を押して準備したところでした。受賞論文講演の座長をして下さった女性の会員を当園の看護師長数名が取り囲んでいたの、何を聞いているのかと聞き耳を立てていたところ、「どうしたらそんなにキレイになれるの・・・？」との質問。その女医の方はハンセン病の専門家でもありますので、今回は是非、ハンセン病の質問をしてもらいたいものだと思ひました。ご迷惑をおかけしました。

今回、ハンセン病学会のお世話をさせていただき、会員の先生方について次のような印象を持ちました。①ハンセン病に対する半端ない情熱、②ハンセン病に関わってきた揺るぎないプライド、③どんな辺鄙なところでも厭わず乗り込む精神、④“オタク”と言われようが我が道を行く独立心などです。私自身還暦を過ぎてこれらの強烈な個性との出会いは得がたきものだと考えております。

最後に閉会式で述べたことを記載し“顛末記”を終えたいと思ひます。

会員の先生方のご協力で閉会式を迎えることになりました。誠にありがとうございます。心より御礼申し上げる次第です。学会本部の石田理事長、園事務局長にも大変無理を言い、いろいろとお願いさせていただきました。大変申し訳なく、おかげさまで無事に終えることが出来ました。

シンポジウム2題の座長をお務め下さった先生方、シンポジストの先生方、一般演題で参加下さり、また座長をお引き受け下さった先生方に心より御礼申し上げます。また森修一先生には何度も当園において下さり、打ち合わせをして指針をお与え下さいました。もし今回の学会が評価いただけるのであれば、その評価の多くは森先生のおかげであり、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

非常に不便な地域での開催ということで、先生方にはさぞご不便をおかけしたことを存じます。

最後になりますが、今回の学会を開催するにあたり、三國副園長が事務局長として中心となり、プログラムその他すべての取りまとめをやって下さいました。事務・庶務・会計・施設管理・福祉・看護課・給食など、本当によくやってくれました。この場を借りて感謝したいと思います。普段は別の用途に使っていたホールをあつという間に学会会場に変身させてくれました。七年前の東日本大震災の時も思いましたが、私は本当によい仲間に恵まれたものだと思います。仲間には感謝です。

そして来年の野村園長の沖縄での開催のご成功を心よりお祈りし、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。



よろしくお願いいたします

事務長補佐 佐々木 和 久

本年四月一日から、庶務課事務長補佐で勤務することとなりました。

よろしくお願いいたします。

出身は、当園近くの米山町で国道346号線旧迫川付近です。子供の頃は、周りが田圃ばかりでしたので、春はおたまじゃくしと戯れ、夏は堀でザリガニを釣り、秋はイナゴ取りでアルバイト（昔は小遣い稼ぎができました）冬は凧上げや友人と三角ベースボールなどをしておりました。

今では減反政策により田圃の面積も減少し、替わりにチューリップで有名になっているようで、町並みも大分景色も変わってきました

の将来像に関して、少しでもお役に立てるように頑張りたいと思います。

東北新生園の印象について、昭和の時代に一度伺ったきりで、何度か建物配置図を目にする機会がありました。改めて勤務して感じることは、敷地が広大で、自然豊かで閑静な場所だと感じました。（自然が豊かすぎて、最近では近所で熊の目撃情報があったり、夜にコンビニに行こうとすると、野兎やら狸やら栗鼠やら道路を横切るので困っておりますが、朝方に鳥の声で起きるのも良いものです。）

休日の早朝には、園内散歩がてらにウォーキングラリーコースを散策して見ましたが、一時間は要しました。（敷地が広大すぎるか？）園内には、しんせい資料館等の歴史的な建物が残っていたり、教会等宗教に係る色々な建物やさくらホールのような真新しい建物も見られます。一方で、以前は園内各所にあった居住者棟等が、メープルケアセン

が、遠くに見える栗駒山等遠目の景色は昔のまま懐かしさを感じております。

高校卒業後、国立療養所八戸病院に採用していただき、以来旧国立病院・療養所、NH O（独立行政法人国立病院機構）JCHO（独立行政法人地域医療機能推進機構）を経て、この度国立療養所東北新生園での勤務となりました。病院における事務職として三十八年程になりました。

平成十六年度に国立病院・療養所がNH Oに移行してからは、安全・安心な医療の提供とともに患者サービス・患者満足度を下げず健全経営に努めるか（平たく言えば、如何にして収支バランスを保つか）を念頭に置いておりましたが、東北新生園では、より一層入所者の皆様に満足いただける生活の提供が大事なのだと感じております。あつという間に三ヶ月が過ぎようとしておりますが、東北新生園の過去の歴史を勉強しつつ、東北新生園

ターの完成により立体集約化され、その役目を終えた建物もあり、多少の寂しさを感じる場所も残っているようです。

しかし、入所者の方々の高齢化も進んでいると言うことで、入所者の方々のニーズに合わせ、建物のあり方も変わっているのだと思います。

また、園の行事は様々ありますが、入所者向けの行事だけでなく、ゲートボール大会や花火大会等、地域の方々との交流を目的とした行事もあり、地域の方々と関係行政機関などと協力しながら、東北新生園のことをもっと知ってもらえるよう、その一助になれるように頑張りたいと思います。

さて、私の枠も残り少なくなりましたので、多少自己紹介を付け加えます。寅年生まれの〇〇才、いまだ独身です。趣味と言えるほどのものはありませんが、暇なときはパソコンで囲碁・将棋・麻雀をする位、たまにはドラ

イブもしていますが、メタボ体型を解消すべく体を動かすこともしなければと思い、職員宿舎に入居したのを機に、気が向いた時には周囲の草刈りをしています。しかし、宿舎周りだけでも結構な敷地面積！一時間程度しか体力が持たないので、何時刈り終わることか……。実は、やったというだけで自己満足？こんな私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



私の故郷

一般作業療法主任 本間 俊次

四月から新生園で勤務することになりました。作業療法士の本間です。以前に見たことがあると思われた方もいらっしゃると思われます。実は、今回で新生園での勤務は三回目になります。一回目は、平成十二年四月から平成十三年三月までの一年間。二回目は平成二十年四月から平成二十四年三月までの四年間の勤務でした。自己紹介については、以前に「新生」に書かせていただいたので、今回は私の生まれ育った故郷について書かせていただきます。

私が生まれ育った故郷は、秋田県の象潟町（きさかたまち・現にかほ市）です。先日、日本テレビの「笑ってこらえて」の「ダーツ

の旅」で紹介されていたので見た方もいらっしゃるかと思います。象潟町は、日本海に面した秋田県南端の町で、鳥海山のふもとに位置します。鳥海山は、標高二三三六メートルで福島県にある燧ヶ岳に次ぐ東北第二の高さの独立峰で、海に面している日本では珍しい山です。五合目の鉾立までは、鳥海ブルーライン（無料道路）を通り、自動車で行くことができます。鉾立にある展望台からは、日本海が一望でき、山形県の飛島、新潟県の粟島まで見渡すことができます。また、眼下に、奈曽川が深い樹林の下を流れる奈曽溪谷を見ることが出来ます。春は新緑、秋は紅葉、夏は登山とシーズンを通じて多くの観光客が訪れます。鉾立は鳥海山登山口でもあり、山頂まで約四時間半で登ることが出来ます。七合目の御浜には「鳥海湖」があり、東側の扇子森や長坂道の南西斜面は、鳥海山随一のお花畑で、ハクサンイチゲやニッコウキスゲ等（七月頃）の群落があります。

象潟は古くから景勝の地として知られ、鳥海山の火山活動により「象潟岩屑なだれ」と呼ばれる山崩れが発生し、その土砂や溶岩が日本橋に達し、潮の満ち引きにより、大小様々な島が形成され「九十九島」と称されました。特に鳥海山の優美な山容と海面に浮かぶ島々、そこに生える青々とした松の枝ぶりが「東の松島 西の象潟」と呼ばれる程全国的にも知られる存在になったとのこと。その景観から多くの文人墨客が象潟を訪れ、様々な和歌や俳句、絵画などの作品が残されています。松尾芭蕉もその一人です。芭蕉は「奥の細道」で松島と象潟の両方を訪れるのをとても楽しみにしていたとされ、象潟は芭蕉が訪れた最北の地となつています。芭蕉は象潟で「象潟や雨に西施がねむの花」と詠んでいます。句意は雨に濡れたねむの花は、あたかも中国の美女西施が憂いの顔のように咲いていたと言うことだそうです。しかし、松尾芭蕉も訪れ

ることを楽しみにする程の景観であった象潟「九十九島」は文化元年（一八〇四年）の象潟地震により地面が二メートル以上隆起したため、海面に浮かぶ島々も陸地化し風光明媚な景観を失ってしまいました。今では、道の駅「ねむの丘」の展望室から見える、田んぼの中に点在する島々が昔の「九十九島」を偲ばせます。

象潟は海あり山ありの地であるため、季節ごとに美味しい物がたくさんあります。春は桜鱒、山菜。夏は岩がき、もずく。秋は鮭、きのこ。冬はハタハタ、鱈。どの季節も新鮮なものを手に入れることができます。

今回、私の故郷、象潟町を紹介させていただきました。少々ご当地自慢になつてしまつた感がありますが、一度立ち寄つて確かめてみては如何でしょうか。

ごあいさつ

栄養係長 柴田 元

四月より東北新生園の栄養係長として参りました柴田元といいます。よろしくお願いします。今回は僕の自己紹介をしたいと思います。

出身は青森県の青森市です。青森は高校卒業まで生活していました。青森といえばねぶた祭を連想する方が多いと思います。僕も小さい頃はねぶたの太鼓を叩いて参加していました。今でもねぶたの囃子を聞くと青森が懐かしくなります。あと青森といえばリンゴです。毎年実家の母親から段ボールにたくさんリンゴが送られてきます。そこで飽きるほどリンゴを食べ、もう食べたくないと思つていて

も、またしばらくすると食べたくなります。そんな僕は生粋の青森県民だと思っています。

僕が栄養に興味を持ったきっかけは高校の部活動でした。部活はボート部に所属していました。夏は青森の堤川でボートを漕ぎ、冬は雪で外での練習が出来ないため室内で身体作りが中心でした。そんな高校生活を送っていたある日、本屋でスポーツ関係の雑誌を読んだ時に「効率よく筋力を付けるには身体を作る材料の食事が必要」といった記事を目にしました。当時の僕は筋力や持久力を向上させるのが目標だったので、これならできると思い食事に気をつけるようになりました。それが栄養に興味を持つきっかけでした。その後、詳しく栄養について勉強したいと考え北海道の大学に進学し、管理栄養士の資格を取得しました。

大学卒業と同時に国立病院機構に就職しました。最初の勤務地は福島県須賀川市にある

国立病院機構福島病院でした。ちょうど勤務先が決まった年に東北大地震があり、北海道から福島までの引越しに大変苦労しました。青森までは電車で行きました。しかし新幹線が運休していたので、青森から福島までは高速バスを乗り継いでなんとか行くことができました。当時は引越し業者も手配出来なかったので、母親と姉の三人で必要な荷物をキャリーバックに詰め、残りは現地調達で生活用品を揃えました。最初は初めての栄養士の仕事に戸惑い、生活ではスーパーに食材が無く、買い物に苦労するといった新社会人生活を送りました。

そんな体験をした福島には七年間勤務しました。週末は会津で鶴ヶ城観光や猪苗代湖でスキーやスノーボードで雪を堪能し、いわきのアクアマリン福島や三春滝桜を見に行くなど福島を楽しみました。今回、宮城県に來たので週末は観光して宮城の良いところをたく

さん体験しようと思います。

東北新生園に來てすでに三ヶ月が過ぎました。初めての転勤と初めての職場長で覚えることが多いですが日々頑張っています。給食の業務を行うこと以外にも園のイベントにも参加させていただきました。六月に第三十五回高松宮記念杯近隣親善ゲートボール大会で選手として参加しました。最初はゲートボールのルールさえ知りませんでした。大会の時は、私の倍以上に年の離れたご年配の方々が正確に僕のボールやゲートを狙っていき試合は完敗しました。僕は第1ゲートが通過出来なかったり、近くのボールに当てる事が出来なかったりと散々な結果でした。結果は出ませんでした。ゲートボールというスポーツを知る良い機会になりました。今後は他のイベントに積極的に参加し、東北新生園の事を知っていききたいと思います。

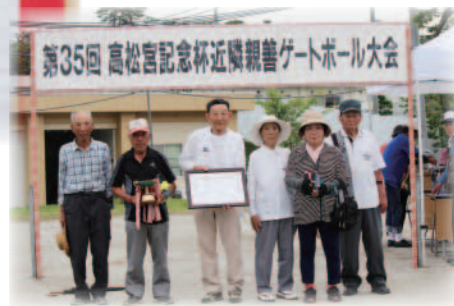
また、本職である給食業務についても入所

者のみなさまに満足して頂ける食事をご用意したいと思います。僕自身昨年の十二月に体調を崩して一週間入院していました。その入院生活中は寝ているだけで退屈でした。しかし、唯一日常に変化があったのが食事でした。そのおかげで暇な入院生活を過ごせたと思っています。この入院生活を経験して、改めて毎日楽しい生活を過ごす一部に、食事が深く関わっていると再確認出来たと思います。僕はその職務の役割を十分に発揮できるように日々の業務を行っていきたいと思います。未熟な僕ですが、今後ともよろしく願います。

第35回 高松宮記念杯 近隣親善ゲートボール大会



選手宣誓
昨年優勝 岩手千厩チーム



今回優勝 鹿島台さつきチーム

一人息子の辺見さん

今野きよし

A 聞き手

B 爺さん

A しばらくぶり、元気だったかね、爺さん
B さっぱり来なかったな、どこさ行つて
A たのや、待つていたんだと
A おれどこさも行かね、家に居た、畑仕事
A していた
B 何か用事あつて来たのか
A この前に聞いた、話の続き聞きたいと
B 思つて来た
B なんだ、忘れてしまった
A 辺見さんの話、兵隊に行つた時の話
B あの事か、忘れない、ちゃんと覚えてい
る、出て行つた時のことなら、頭の中に

ある、そのことのために生きていたよう
なもんだ
A ほんだべな、一人息子だものな、他は娘
ばかりだものな、いざとなると息子だべ
A ほんだあのときは気抜けしてな、体に力
B 入らなかった、よくここまで立ち直つた
もんだ
A おらには想像もつかないことだな
B そういうことだな、食欲もなくなつてし
A まいやつぱり子供達が支えたつたな
A それはそうだべな、なんぼ離れて居たつ
てや風呂敷包みも来たしな、みんなから
B そういうことにするか、負けた
A 辺見さん、兵隊に行つた時のこと、聞き

B たいと思つて来た
A ああ、あのことが、徴兵検査の年、一年
B 家に居て、ぶらぶらしていたんだ
A あの時のことなら、おれもうろ覚えに
知つてゐる、小学四年生か、五年のとき
B だった
B ほんでわかるやな、毎日家に居るもんだ
A もの、仕事もしないで
A 毎晩のように、遊びに出て行つたけな、
おら家の前を、母ちゃんがどこさ行く
A のつて、聞くと、夜学つて出て行つた
（白粉匂いした） 母の一言
B 兵隊さ行くと思つて、大目に見ていたん
だ、何も云わないようにした
A 仲間増やそうとしている
B そうだったの
A 小学校高等科二年（今の中学二年）卒業し
て奉公に行つて、四年か五年、働いたな
B あの年徴兵検査の年か
A そうだ、二十歳で徴兵検査、甲種合格に

なつて、現役兵として、秋には入隊（仙台）
明け来る年の、四月には満州（中学東北
部）に渡り、七月には、戦地に送られた
A んだ
B そうだったのか
A 戦地に送られて二日目か、三日目に負傷
してしまつて、仙台に帰されて、陸軍病
院入院したんだ、今の国立仙台病院
B 随分くるくる忙しかつたね
A 軍隊嫌だつて言つていたから、あまり気落
ちしなかつたべ、今だから言うけれども
B 口に出したら、大変なことになつからな
A 負傷して帰つて来ても、良いこともあつ
たでないの
B 何かあつたのか、聞かせてや、聞きたいな
A 俺よりも、爺さん詳しいべ
B 解らないこともある
A 辺見さんの奥さんの事、嫁さんのさ
B ほんだな、負傷して帰つてきたからな
A 仙台病院で一緒だった人、おらえの前

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《漂着船》

北 辰 一 硯

北朝鮮から流れ着いたと思われる
木造船が死んだ人を乗せたまま
北日本、日本海、海岸に漂着して
船の形を止めない哀れな姿である
そんな船で漁をしているとは
不思議に思えばかりである

通って爺さんに会いに来たって言ったべ、
あの人に仲人してもらったのか
B
ほんだ、大変お世話になったな、あの方
には、名前も忘れてしまった、隣の人
だって聞いた、今はどうしているか、ご
無沙汰している、息子達もどうやらやっ
ているから、良いけれども

A
話は良い所で終わったよう
B
話とはんとんと、進んだけれども、二人
共若かったので世の中の、流れについて
いけなかったの・・・

A
それで二人で来ること少なかったのか
B
病氣して入院していたのさ、子供連れて
きたこともあった、子供何も知らない、
大声出していた事もあった

A
おらえの庭で大声出して、恥ずかしそう
にしていたのを見たことある
B
物事なかなか順調にいかねんだな、もう
少し我慢して見てやるより他ないんだな

A
風呂敷包みせびられたのか
B
まあな、そういうことだ
A
爺さん、おれ一句出来た
B
聞かせてみる、耳澄ますから

留め置きし風呂敷包みせびられる

A
では、お休み、さようなら
B
また来てな、待っている



漁師ばかりではなく軍人も
工作員も乗っているとの噂もある
冬の日本海は低気圧が発達して
台風並に大荒れ寒気が入って
雪を降らすのである、そんな時
日本の漁船は天候を見て漁に出ない
のである

北朝鮮では良い漁場を中国に売って
外貨を稼ぎ漁師達は日本の領海の
大和堆に船団を組んで出漁し日本の
漁船を圧迫し恐ろしい位だと言う
北海道の江差小島に北朝鮮の漁船が
一週間位上陸して生活していたようだ
と目撃者の話もあり間違いないようだ
番小屋にあった発電機やテレビ
船外機、太陽光パネル等色々な物を盗み
窓ガラスを割り、金目の物を根こそぎ
盗んだ疑いで船長外二人逮捕
被害は甚大であり番小屋は使用不能
との事だ

日本海、海岸に流れ着いた船が
余りにも多く百四件疑問だらけだ
実際に漁をする船は二隻か三隻
毀れた船と死人が多いのだ
もしかして海葬したのではないか
とも思うのである
日本では船が遭難した時は
昼夜を問わず救助捜索する
北の国では船が遭難しても
海のもくずと消えても探す事もなく
放って置くのだと思うと
背筋が寒くなる

核やミサイルを揚げる金で船を造れば
何隻も造れると思う国民が
口出しは出来ないのだ
下手な事を言うと言殺される
共産国の恐ろしいところだ
韓国の平昌で冬の五輪が

開かれるので北と南が話し合いを
する事になり北の選手団を
受け入れる事になった
核の問題に触れるとアメリカを
狙っているのだ、同民族を狙っている
分けではない、核の話は別問題だ
世界各国から核ミサイルは
違反だと言われても国連の
言う事も聞かず石油等々
物資の凍結に意地を張って
百年経ってもびくともしない
金正恩は嘘吹いている

困っているのは国民なのだ
もう少し賢い態度を示せば
日本始め各国から援助を受けられる
拉致問題を素直に解決すれば
最も豊かな北朝鮮の未来が
開けるだろう、金正恩さん世界と
手を繋ごうではないか

【選 評】

《漂着船》

北 辰 一 硯

マスメディアの報道を受けて生まれた作品。リアルであるが、事が事だけに作者の中で充分に反芻する必要を感じる。一般論にのった安易な見方は、自重してかかるべきであろう。

◇ 佳 作 ◇

《隣りのお兄さん》

今 野 きよし

白粉匂わせ
夜学に通い
軍隊に

戦傷帰還
故里に
病床見舞の
女性と知り合い
ゴールイン

ラジオドラマを
彷彿と

筋道素敵な
隣りのお兄さん

短歌

皆川二郎選

◇入選◇

北辰一 硯
病い持ち六十七年生きのびて今あることを不思議に思う

【選評】

作者は、病いを持ちながらもそれと戦い、六十七年を生きのびてきたことへの感慨と、現在も、なお生き続けていることの不思議さに自分自身をみつめなおしているであろう。同時に今後の人生に対する内心の決意も感じられる一首である。

今野 きよし
騒然と厳しくなりし世にありて療養生活
今日も変わらず

【選評】

国の内外を問わず世の中は常に動いており、平和の問題も経済の問題も政治の在り方も必ずしも平穏とは言えない。しかし、作者の日常の生活は今日も変わることがないという事実を客観視している。

北辰一 硯
風呂敷の包み一つを抱え持ち蕎麦寮に
案内されき

【選評】

今月の作者の連作は、現在の施設に入寮した当時の回想詠であり心打つものがある。不安を抱えながらも入寮し、そして安住の地に安堵されたことであろう。

◇佳作◇

今野 きよし
年末の仮退院に身を置きてどこか忙しく新年迎う
新年を仮退院の住居にて病い落ちつき
七日間過ぐ
空腹を覚える時は焼海苔を代りに食みてひととき凌ぐ
帰らねばならなき入院生活に睡眠薬を
いただき休む

北辰一 硯

朝起きて故郷の位置に迷いつつ寮の窓明け見渡したりき
東京に大雪降ると予報あり早き帰宅をテレビ促す
六年振りに平幕力士優勝し休場横綱に苦言きびしき



俳句

山田桃晃選

◇入選◇

思い出の数々残し雁帰る
今野 きよし

【選評】

思い出は山ほどある一生忘れられない出来事など、楽しかったあの慰安会、夢のような踊り等々、ことに月の夜に棹になり鉤になって帰っていく雁の姿とおしむ明日があり限りある命の尊さと思う。

◇佳作◇

馬鹿野郎一声高く山笑う
園 永 泊
これまでの夢が重なり落葉かな
匂いする奥より光る風光る
色どりの尚の衣や山紅葉

今野 きよし

雁帰る仮退院をいとおしむ
明日までの仮退院や雁帰る
絶妙の思い出残し雁帰る
閉じ籠り根雪眺めて日を過ごす

斎藤 照雄

母いつも後で見守る螢狩り
母の手を借りて摘みしや螢草
あぶらぜみ最もうなる午後一時



踏まれきて麦青々と青々と
斎藤 照雄

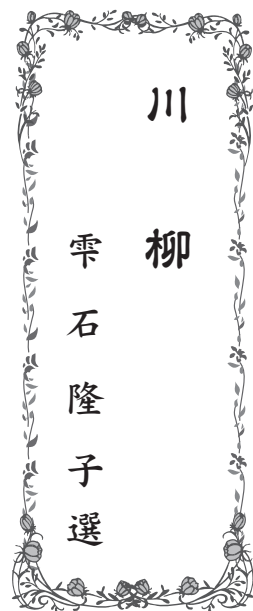
【選評】

麦踏の景が目あたりに浮かんで来る、青々と青々とが生きる証し、凍土がゆるみ麦の根が浮きあがるので根を踏みかためて麦秋を待つ生産者の踏まれきてなのである喜びが待ち遠しい。

熱燗は話すだけです闘病中
園 永 泊

【選評】

冷酒は夏、冬はやはり熱燗、中間はひとり酒、はしご酒、健康な人は色々ある。私は闘病中話すことはその日その日の有難い生活だけです頑張りましょう。



川柳

雫石隆子選

《地位》

斎藤照雄

見えぬ目に見えたよあなたの真心が

【選評】

見えないものが見える、この鋭敏さは目の不自由な人に与えられた特権かも知れない。人のこころは目には見えないが、その言動から心模様が伝わってくる。豊かな想像力と洞察眼が光る。

◇入選◇

《人位》

千歩

紫陽花が列車に手を振る無人駅

【選評】

無人駅に咲き誇る紫陽花。乗降する客もまばらな駅で人を見送り、風に吹かれる枝が手を振るかに見える。感性の豊かな作者である。

《天位》

桜山南仙

山彦も年齢を重ねてかえらない

【選評】

ご高齢になってのもどかしさ、それを不思議と思うよりも達観し、あつけらかと受容する。自身の完成した価値観の中で、生きることを楽しむ作者であろう。

◇佳作◇

千歩

クリックで消せぬ想いを紙に書く

長沼蓮花

スッピンを夫に見せぬ時期は過ぎ

夏バテも体重計は知らぬ顔

サムライブルー前評判をくつがえし

斎藤照雄

桃生小富士

転んでもニコニコとだるま様

父母がいたらと思う無菌証

半端ないプレーで日本勝利する
非核化へみんなよろこぶ天も地も
生きている喜び合掌の中にあり

今野きよし

ふかふかの布団に沈む夢の中

無意識にてっぺん見つめ暮らしおり

桜山南仙

粥すすり病の重さ知りました

転勤のあいさつ

看護師長 小田桐

惠

この度、国立病院機構あきた病院から赴任して参りました小田桐でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

出身は、青森県平川市です。弘前市と接し、東に八甲田山、西に岩木山があり、四方の山々に囲まれた津軽平野の南端に位置した所です。豊かな自然の中で、米、りんご、野菜など、農業がさかんに営まれています。また、生け垣が多く、古くから植木の町とも言われています。観光地は、ジブリ映画「借りぐらしのアリエッティ」のモデルとなった国指定名勝「盛美園」猿賀神社に隣接する「猿賀公園」があります。春は三百三十本の桜が咲き揃い、

夏には鏡ヶ池一面に淡いピンクの蓮の花が訪れる人々の目を楽しませてくれます。

(注・・・伊豆沼と比べると狭いですが・・・)

この辺りは、猿賀神社の保育所に通っていた私にとって、自分の庭のような場所です。

私は、高校で准看護師の免許が取れる衛生看護科を卒業後、国立療養所盛岡病院付属看護学校へ進学しました。盛岡病院では、岩手山の雄大さに包まれ、看護する者の心を『気は露を含む菊の如し、心は霜を貫く竹のように強くしなやかであれ』と教えを受け、二年間過ごしました。その後は、地元の国立病院機構弘前病院に就職し、泌尿器科・皮膚科・放射線科・耳鼻科・外科の混合病棟、外来、母子センター（未熟児室）、整形外科病棟や呼吸器科・循環器科・脳神経内科・消化器科などの内科系の病棟で勤務させていただきました。そこで、たくさんの方々と出会い、その時点で自分ができる看護をさせていただき、

患者様からもたくさん学びを得ました。看護について学びを深める中「看護師も患者にとつて環境の一部であり、看護師の存在自体が患者に害を与えてはいけない」という言葉を知り、常にこのことを忘れないよう心がけるようになりました。

前任地である国立病院機構あきた病院では、外来中材看護師長として勤務させていただきました。日本海を眺め、海風を身体に受け、鳥の鳴き声を聞きながら通勤していました。日本海に沈む夕日はとても美しく素敵でした。東北新生園へ異動となり、夕日の沈む日本海側から朝日が昇る太平洋側で生活することとなりました。深い青空と真っ白な雲、これが太平洋側の空なんだなあと、空を見上げています。

白梅・紅梅に迎えられスタートした訳ですが、ハンセン病の施設での勤務は初めてとなります。遠い昔、高校生の時に青森県の松丘保養園を見学したのみです。その時、ハンセ

ン病の講義を受けた記憶はありますが、知識はほとんどありません。入所者の方たちと接するのも今回が初めてとなります。ハンセンの歴史や入所者の方とのお話を聞き、その言葉の背後にある思い・言葉にできない感情を感じ、この場所で生き抜くためお互いに支え合い生活してきた姿を思い浮かべながら、人生の先輩である入所者の方たちから学び、力を与えてくれる想いある言葉を受け取っております。

「人権を尊重する」とはどういうことなのか？皆さんと共に考え深めて、行動できるよう努力して行きたいと考えております。

そして、入所者の皆さまが穏やかに安心して過ごせるよう、スタッフの皆さんとともに協力し、看護・介護をしていきたいと思っております。

不慣れで到らないことが多く、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いします。

看護功労表彰を受けて

准看護師 窪田 澄子

この度、ナイチンゲールの誕生日に由來する「看護の日」を前に五月十日、宮城県庁、行政庁舎において、平成三十年看護功労表彰式が行われました。おこがましくも、私もその一人として、看護功労表彰を受けて参りました。大変名誉な賞を頂き、光栄かつ、夢のような場所に立つ事ができ、私の人生の中で最高の日となりました。

受賞代表の方が挨拶の中で「試練も多かったが、振り返れば苦勞よりも喜びが大きかった」と話しておりましたが、私も本当に同じ思いとその場に立っておりました。

そもそも、私が看護師になろうと思ったきっかけは、八歳の時に父が事故で亡くなっ

た事、そしてもうひとつは母親が「将来食いつぶれがないように手に職をもちなさい」という言葉で、要するに技術を身につけなさいと言う事でした。

自分の進路について考える時、当時私の叔母が看護師をしておりまして相談した所「一度病院に来て看護師の仕事を自分の目で見て、本当に看護師になりたいかどうか決めなさい」と助言してくれた事でした。

そのお陰で看護の道を選び、栗原医師会付属看護に入學致しました。

そして、昭和四十八年に医療の現場に立ち、内科、小児科に携わっておりました。その中で私にとつて、とても辛い経験を致しました。それは一歳前後の赤ちゃんだったので、急性白血病で入院しておりまして、新鮮血を輸血する度に針を刺す為その都度、悲痛な声を出し泣いていました。その悲痛な泣き声を耳にする度私も泣いていました。先生からは「泣くな」と叱られ私も随分悩みました。

結局その赤ちゃんは、母親の腕の中で亡くなりました。子供に先立たれる親の気持ち赤ちゃんはもつと、もつと母親に甘えたかっただろうと思うと心が痛み、絶対に忘れられなく私の心の中に強く残っております。私はこの経験で小児科は絶対に無理と思い、老人看護に携わり現在に至っております。

私は、東北新生園に昭和六十一年五月から縁があつてお世話になつておりますが、勤務初日に基本科の机の上に一冊の本が置いてありました。その本をめくって見て、一つの詩に目が止まりました。はつきりは覚えておりませんが、患者様が書かれた詩でございました。確かこのように書かれていたように思います。

乾いたのだ潤すに

すくえども すくえどもこぼれる水

されど

天の星を指さすには

何の苦もない

と言う詩で、私の心の中に強く響き、微力ながら入所者様の為に、手となり、足となり、そして目となり少しでも支えられ力になりたいと思います。ただただ、ひたすらに三十二年間やって参りました。時には家族のように寄り添い、又、見守ってきたつもりでしたが、逆に支えられた三十二年間でもありました。

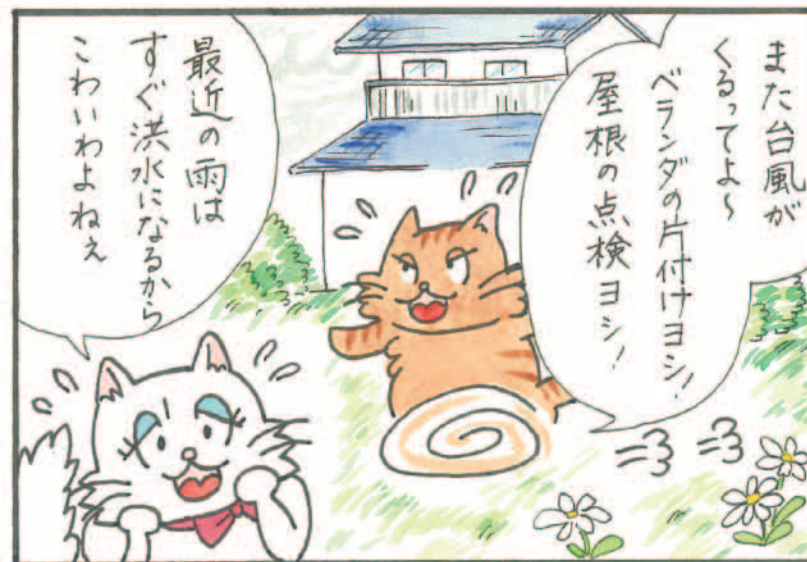
これから、この気持ちを忘れず、高齢者看護の在り方を考え、又、ハンセンに関する、私なりに知り得たる知識、技術を伝えたいと思います。最後に私を応援して下さい下さった方々に感謝し、そして、看護功労賞を頂いた新聞記事をファイルに綴じて下さった心配り、お祝いの言葉をかけて下さった楓会会長に感謝致します。本当にありがとうございます。そして家族に大きな声で「ありがとうございます」と言いたいです。

原作・桃生小富士
まんが・北村小蝶



4コマまんが

たすけあい



第20回 夏祭り花火大会

平成30年7月21日

